

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

(平成22年度対象)

平成23年8月

富津市教育委員会

目 次

点検・評価制度の概要について	1
教育委員会の活動状況	3
点検・評価の結果	
1. 庶務課	
(1) 安全・安心な学校施設	6
2. 学校教育課	
(2) 学校評議員事業	8
(3) 私立幼稚園就園奨励事業	8
(4) 要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業	9
(5) 特別支援教育児童・生徒就学奨励事業	9
(6) 学校給食事業	10
(7) 学校給食管理運営事業	10
(8) 児童生徒の安全・安心の確保	11
(9) 富津市小・中学校再配置構想	12
3. 教育センター	
(10) 教職員研修推進事業	14
(11) 自立支援事業	15
(12) 適応指導教室事業	16
(13) 社会副読本作成事業	17
(14) 教育相談事業	17
(15) 特別支援教育推進事業	18
(16) S E 配置事業	18
(17) 外国人英語指導者招致事業	19
(18) 小中連携教育推進事業	19
4. 生涯学習課	
(19) 社会教育指導員設置事業	22
家庭教育指導員設置事業	
(20) 生涯学習推進事業関係事業	22
(21) 家庭教育支援事業	23
(22) 視聴覚教育の振興事業	24

(23) 青少年健全育成関係事業	24
(24) 図書館関係事業	25
(25) 文化財保護関係事業	26
(26) 市内遺跡発掘調査事業	28
(27) 民間開発発掘調査事業	28
(28) 富津市直営工事に伴う発掘調査事業	29
(29) 青堀駅自由通路床サイン陶板製造事業（まちづくり交付金）	29
(30) 富津市文化財がわぶ印刷製本事業（まちづくり交付金）	30
(31) 青堀駅史跡案内板設置事業（まちづくり交付金）	30
(32) 古墳案内人育成支援事業	31
(33) 高宕山のサル被害防止事業	32

5. 体育振興課

(34) 社会体育振興事業	34
(35) ふれあいスポーツフェスタ事業	35
(36) 市体育施設管理運営事業	36
(37) 第65回国民体育大会推進事業	37

6. 富津公民館

(38) 富津公民館管理運営事業	39
(39) 成人式事業	39
(40) 富津公民館学級・講座関係活動事業	40

7. 中央公民館

(41) 中央公民館管理運営事業	43
(42) 市民文化祭事業	43
(43) 中央公民館学級・講座関係活動事業	47

8. 市民会館

(44) 市民会館管理運営事業	51
(45) 峰上地区公民館管理運営事業	52
(46) 市民会館学級・講座関係活動事業	52

9. 教育委員会の広報活動

(47) 教育かわら版の発行	56
----------------	----

【点検・評価制度の概要について】

(1)趣旨

教育委員会制度は、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本の方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育的行政事務を執行するものです。

このため、事前に立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているか、教育委員会自らが事後にチェックするとともに、地域住民に説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

本報告書は、市教育委員会が効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき平成22年度の富津市教育委員会に属する事務の管理執行の状況について、学識経験者の知見を活用した総合評価を行った結果について報告するものです。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2)対象事業

- ① 安全・安心な施設
- ② 学校教育の振興を図るための各種助成制度
- ③ 子どもたちのよりよい成長と学校づくり
 - ・心豊かでたくましい児童・生徒の育成
 - ・確かな学力を身につけた児童・生徒の育成
 - ・児童・生徒の成長を支える教育力の高い学校づくり
- ④ 学びから生きがいを、生きがいをまちづくりへ（生涯学習）

- ⑤ 公民館・市民会館活動
- ⑥ その他

(3)学識経験者の知見の活用

点検・評価について客観性を確保するために教育に関し学識経験を有する方の意見を伺いました。学識経験者の評価と意見は、各課等の最後に記載しています。

(4)評価については、3段階(A・B・C)で表わしています。

- A：施策目的の達成に向けて順調に進んでいる
- B：施策目的の達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある）
- C：施策目的の達成に向けて困難な課題がある

【教育委員会の活動状況】

富津市教育委員会教育委員名簿

平成23年3月31日現在

職 名	氏 名
委 員 長	池 田 亨
委員長職務代理者	宮 田 賢
委 員	稲 葉 一 郎
委 員	坂 井 東 子
教 育 長	渡 辺 隆 二

教育委員会委員は、教育委員会会議での審議のほか、教育に関わる会議・研修・行事への出席や施設訪問等を行い、委員会活動の充実に努めています。

(1)定例会議等

4月22日 定例会議開催

- ・富津市社会教育委員の委嘱について
- ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて
- ・報告事項

5月27日 定例会議開催

- ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱について
- ・富津市社会教育委員の委嘱について
- ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- ・平成22年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出6月補正予算について
- ・報告事項

6月24日 定例会議開催

- ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について
- ・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について
- ・報告事項

7月 2日 臨時教育委員会会議開催

- ・富津市教育委員会委員長の選挙について
- ・富津市教育委員会委員長職務代理者の指定について
- ・議席の指定について

- 7月29日 定例教育委員会会議開催
 - ・報告事項
- 8月26日 定例教育委員会会議開催
 - ・平成22年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出9月補正予算について
 - ・報告事項
- 9月30日 定例教育委員会会議開催
 - ・報告事項
- 10月28日 定例教育委員会会議開催
 - ・富津市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について
 - ・報告事項
- 11月25日 定例教育委員会会議開催
 - ・平成22年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出12月補正予算について
 - ・報告事項
- 12月24日 定例教育委員会会議開催
 - ・平成22年度富津市教育委員会被表彰者の決定について
 - ・報告事項
- 1月27日 定例教育委員会会議開催
 - ・平成23年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出予算について
 - ・報告事項
- 2月 6日 平成22年度富津市教育委員会表彰式
- 2月24日 定例教育委員会会議開催
 - ・青堀駅東口史跡情報案内所の設置及び管理に関する条例の制定について
 - ・富津市公民館及び市民会館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - ・平成22年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出3月補正予算について
 - ・平成22年度末退職教職員に対する富津市教育委員会感謝状の贈呈について
 - ・平成22年度富津市教育委員会被表彰者（追加）の決定について
 - ・報告事項
- 3月29日 平成22年度富津市退職教職員感謝状贈呈式
定例教育委員会会議開催

- ・富津市社会教育委員の委嘱について
- ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・富津市教育委員会公告式規則の一部を改正する規則の制定について
- ・富津市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について
- ・富津市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令の制定について
- ・富津市社会教育委員会議運営規則の制定について
- ・報告事項

(2)教育委員の研修等

- 4月28日 平成22年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会
 5月21日 平成22年度君津地方教育委員会連絡協議会総会
 10月18日 平成22年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会第1回教育委員研修会

講演

- 演題 「みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン」について
 講師 千葉県教育庁企画管理部教育政策課
 課長 伊東健司 氏

分科会

- 第1分科会 「外国人児童生徒等の受入れ体制の整備」
 第2分科会 「読書県「ちば」の推進」
 第3分科会 「教職員の資質向上と研修の在り方」
 第4分科会 「地域の幼児児童生徒とともに学ぶ機会の充実」
 第5分科会 「千葉県の家庭教育支援について」
 1月20日 平成22年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会第2回教育委員研修会

講演

- 演題 「学校教育の危機管理 ～危機への対処術～」
 講師 前市川市教育委員会教育次長 大塚康男 氏

(3)教育委員の学校訪問等

- 10月 4日 学校訪問（湊小学校）
 10月 7日 学校訪問（関豊小学校）
 11月18日 学校訪問（天羽中学校）
 1月28日 外国語活動公開研究会（天神山小学校）

1 庶務課	項目(1)
--------------	--------------

(1)	安全・安心な学校施設	評価	B
------------	-------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、安全・安心な学校施設の整備を図る。

耐震設計

吉野小学校（体育館）・湊小学校（普通教室棟、管理・特別教室棟）・竹岡小学校（体育館）・環小学校（体育館）・佐貫中学校（校舎、体育館）

耐震補強

青堀小学校（普通教室棟・渡り廊下棟）・飯野小学校（校舎）・天羽中学校（体育館）・天羽東中学校（教室棟）

改修工事

飯野小学校（プールろ過装置交換）・大貫小学校（増築棟屋上防水改修）・吉野小学校（消火栓ポンプ交換）・佐貫小学校（空調設備設置・受水槽ポンプ交換）・湊小学校（受水槽ポンプ交換）・竹岡小学校（電気設備改修）・大貫中学校（電気設備改修）・天羽中学校（受水槽ポンプ交換）

2. 取組の実施状況

学校の安全・安心を図るため耐震診断で I_s 値 0.7 未満の校舎・体育館等について耐震設計、耐震補強を進めた。

耐震設計は、吉野小学校（体育館）・湊小学校（普通教室棟）・竹岡小学校（普通教室棟・体育館）・環小学校（体育館）・佐貫中学校（校舎、体育館）の 5 校 7 棟の実施設計を行った。

耐震補強は、青堀小学校（普通教室棟・渡り廊下棟）・飯野小学校（校舎）・天羽中学校（体育館）・天羽東中学校（教室棟）の 4 校 6 棟の耐震補強工事を実施した。

また、国の平成 22 年度経済危機対応・地域活性化予備費及び補正予算を活用して、次年度に予定した 5 校 7 棟の耐震補強工事予算の確保をした。

改修工事は、平成 21 年度から繰り越した地域活性化・きめ細かな臨時交付金を活用し、改修工事を実施した他に、照度検査の結果照度不足が判明し、消火栓設備に漏水が発生したことにより、飯野小学校の普通教室照明改修及び消火栓改修を実施した。

3. 今後の課題と対応

平成 22 年度末の学校施設の耐震化率は、70.5 パーセントで全国、県平均を下回っている状況にある。このような状況のなかで、今年度策定した富津市第 3 次基本

計画では、平成25年度末の完了を目標に校舎等耐震補強工事を積極的に進めることとしている。また、学校施設の多くが建築後30年から40年経過しており、老朽化対策にも取り組まなければならない。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <p>3.1 1 東日本大震災を受け、30年以内に来ると言われている大震災を想定し、1日も一刻も早い対策を講じていく必要がある。安全・安心な学校施設の耐震化についても、平成25年度末の完了目標よりも、計画の前倒し、計画を上回る工事等、さらなる早急な対策をお願いしたい。</p> <p>特に、富津小学区は津波対策が重要と考える。学校では保育園と合同で津波避難訓練等を実施しているが、4階、5階以上の避難場所を確保すべく早急な対策を講じていく必要があると思う。</p>	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <p>これまで厳しい財政状況のなか、大地震はいつ来るかわからないとの想定のもと年度計画により、校舎等の耐震設計・補強工事等を目標に向け実施しているが、しかしながら耐震化率は国、県の平均を下回っている状況と今回の東日本大震災は想定を超える地震、津波による大災害となり、本市も津波の恐ろしさを目の前で見ると、今迄かつてない経験をした市民の方々が多いと思われる。</p> <p>想定外とはいえ、これを教訓に児童生徒の学習の場であり、また災害時の地域住民の避難場所としての役割でもある学校施設事業を優先性、緊急性に配慮のうえ積極的な事業の展開を図り児童生徒が安全・安心な環境の下で学校生活を送られるよう一層の努力のうえ財源確保を図り早期整備推進に努められることをお願いしたい。</p>	

2 学校教育課	項目(2)～項目(9)
----------------	--------------------

(2)	学校評議員事業	評価	A
------------	----------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携しながら、特色ある教育活動を展開できるよう、校長の求めに応じて、学校運営に関して意見を述べる学校評議員制度を全校で実施する。

2. 取組の実施状況

81名の方々に学校評議員を委嘱し、市内17の小・中学校で本制度を実施した。各学校とも年3回程度の会議を開催した。また、本市の小中連携教育研修会に学校評議員にも参加していただき各中学校区での取り組みについて理解を図るとともに協力をお願いした。

3. 今後の課題と対応

学校情報を地域に発信し、学校の説明責任を果たす一助として学校評議員が定着してきた。地域の学校に対する期待や評価が把握でき、今後の改善や教職員の意欲向上につながっている。

各学校の実施報告を基にして、評議員による意見や成果と課題を取りまとめ、教育委員会会議や校長会で報告を行った。

(3)	私立幼稚園就園奨励事業	評価	A
------------	--------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

私立幼稚園の設置者が、保護者から徴収する保育料等を減額または免除する場合には、その設置者に対して補助金を交付し、保護者の負担の軽減を図り、幼児教育の振興を図る。

2. 取組の実施状況

市内に住所を有する補助金該当保護者の子(351名)が通う、市内外の私立幼稚園8園の設置者に対し、補助金を交付した。

3. 今後の課題と対応

国庫補助事業であるが、国庫補助率の減少や近年の低所得世帯の増加により、市

の支出負担割合がより一層多くなることが見込まれるが、保護者負担の軽減を図るため、幼稚園と情報を共有しながら予算確保に努めていきたい。

(4)	要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業	評価	B
-----	----------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、負担能力の程度に応じ学用品費・給食費・医療費等の援助を行い、経済的負担の軽減を図る。

2. 取組の実施状況

準要保護児童97名、準要保護生徒67名、合わせて164名を認定し、学用品費・給食費・医療費等の援助を行った。

要保護児童・生徒については、生徒の医療費1名・修学旅行費3名の援助を行った。

3. 今後の課題と対応

生活困窮世帯の増加により、市の財政的負担が年々多くなることが見込まれるが、今後も予算確保に努めたい。

(5)	特別支援教育児童・生徒就学奨励事業	評価	A
-----	-------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

特別支援教育が必要な児童・生徒の保護者に対し、負担能力の程度に応じ、学用品費・給食費等の援助を行い、経済的負担の軽減を図り義務教育の円滑な実施を図る。

2. 取組の実施状況

特別支援学級在籍の27名を認定し、学用品費・給食費等の援助を行った。

3. 今後の課題と状況

保護者の負担軽減を図るため、今後も予算確保に努めたい。

(6)	学校給食事業	評価	A
-----	--------	----	---

1. 平成22年度取組目標

学校給食法では、学校給食が児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的としている。年間193日の給食を実施する。

2. 取組の実施状況

年度末の計画停電により小学校5日分、中学校6日分の給食が実施できず、年間187日の給食を実施した。

食材は可能な限り国産品を使用し、さらに地産地消の推進に努めた。また学校給食衛生管理基準に照らし、共同調理場2ヶ所、単独調理場3ヶ所の調理員及び受配校の配膳員の研修を実施した。

食育を推進するため「教育かわら版」、「広報ふつつ」等に啓発記事を掲載するとともに、富津市食育指導全体計画を各学校に周知し、児童・生徒の食育指導を実施した。

給食費滞納(過年度分も含む)に関しては、給食係、教育部管理職による夜間・休日を含めた滞納者への訪問、子ども手当受給者への窓口での呼びかけなどによりその回収に取り組んだ。

3. 今後の課題と対応

児童生徒が健全な食生活を自ら営むことができる知識及び態度を養うため「学校給食における食育の推進」を図る。また、給食費の滞納については、その解消に向けて取り組み方法を工夫しながら継続して取り組んでいきたい。

さらに、放射能汚染や計画停電等の影響による食材の安全について十分な配慮に努めたい。

(7)	学校給食管理運営事業	評価	B
-----	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

共同調理場2ヶ所、単独調理場3ヶ所にて、学校給食実施基準に照らし安全安心な給食を実施する。

2. 取組の実施状況

共同調理場2ヶ所(大貫、天羽)の調理及び配送業務を民間に委託し実施した。単独調理場3ヶ所(青堀小、富津小、飯野小)は直営にて実施した。

施設設備の老朽化に伴い天羽共同調理場ボイラー交換、大貫共同調理場の屋根防水工事等を実施した。

3. 今後の課題と対応

児童生徒の減少及び用途廃止年数の経過した調理場については、安全・安心を前提に計画的に統合等について検討する。また、施設設備の老朽化や耐用年数の経過した機材が多いことから、維持管理費の増加がみられるので、計画的な更新が必要である。次年度は、天羽共同調理場屋根防水工事、青堀小学校ボイラー交換を実施予定である。

(8)	児童生徒の安全・安心の確保	評価	B
-----	---------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

児童生徒の安全確保のため、学校と地域等が連携しながら交通安全、防災、防犯教育の充実や推進を図る。

2. 取組の実施状況

各学校において、避難訓練、交通安全教室、防犯教室等を実施するとともに、9都県市総合防災訓練や市総合防災訓練への参加・協力など安全意識の高揚に向けて年間計画に基づき指導を行った。

また、子ども見守り隊などの地域ボランティアや学校職員・教育委員会・警察による防犯パトロールも積極的に実施した。

さらに、県教委から地域安全マップ作成推進拠点校として指定された吉野小学校で子どもの危機予測や危険回避能力の育成を目指した授業を公開した。

その他、防犯ブザーやランドセルカバーの配布、教員研修、防災無線による呼びかけ等を行い、安全確保に努めた。

東日本大震災発生時には、各学校の実態に即した一時避難や児童生徒の保護者への引き渡しなどが行われた。

3. 今後の課題と対応

引き続き地域や関係機関の協力を得ながら、児童生徒の主体的な活動を通して、安全・安心の確保を図るよう努める。今後は、通学路や遊具等の安全点検の充実、地震・津波等への対応を含めた危険等発生時対処要領の見直しを図りたい。

(9)	富津市小・中学校再配置構想	評価	B
-----	---------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

「富津市小・中学校再配置構想」に基づき、少子化の状況や保護者・地域の要望等をふまえた検討を進める。

2. 取組の実施状況

この再配置構想では、「子ども達に、より充実した教育環境を提供する」という基本姿勢のもと、保護者・市民と慎重に協議し、調整を図っていくものであり、調整が図れば、実施計画を策定し、具体的な統合準備に移ることとなっている。昨年度に引き続き、現に小規模化が進み複式学級のある関豊小学校と環小学校の統合の是非について両校の保護者・地域住民・教職員に説明を行うとともに、意見の聴取を行った。

3. 今後の課題と対応

両校の保護者・地域住民の意見聴取や話し合いを継続して行い、富津市小・中学校再配置構想に基づいた検討を進める。また、天羽中学校と天羽東中学校のあり方についても、検討を進める。「富津市小・中学校再配置構想」に示す短期統廃合については、平成25年度を目途に、結論を見出せるように努める。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が説明責任を果たし、家庭や地域と連携しながら特色ある教育活動を展開できるようにと推進されてきた学校評議員制度も、市内17の小中学校で定着してきたようである。また、市の小中連携教育研修会に学校評議員も参加し、各中学校区での取り組みについて理解を図ることは良いと思う。 ・ 児童生徒の安全・安心の確保について、通学路や遊具の安全点検の充実、地震、特に津波についての対応等早急に見直しを図り、対策を講じていく必要がある。 ・ 市の小・中学校再配置構想についても、少子化の状況によるものだけでなく、大災害、大震災時の安全性や避難場所を考慮に入れて検討していく必要が出てくるのではないかと思う。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員が市内全校で実施されたことは、学校と地域の意見交換をされ、それぞれの課題成果が評価でき今後の取り組みに活用される点で良いことと思う。 また、小中連携教育推進委員会とも取り組みを図り、更なる向上のため、より一層推進されることを望む。 ・ 就園奨励、児童生徒就学援助及び児童生徒就学奨励の3事業については、市の財政状況は厳しいものがあるが保護者の負担を軽減するものであり、可能な限り継続することが望ましいと思われる。 ・ 学校給食の食材の調達は、現在の環境のもとで苦慮していると推察するも、今回は、牛肉から基準超えの放射性セシウムが検出されたという報道で改めて、今流通している食材は安全とは限らないと痛感した。給食の食材を選べない子ども達に影響しないよう、学校は安全な給食を作り児童・生徒の心身の健全な発達のため最大の努力をされることを切望します。 ・ 給食費の滞納については、その徴収に努力されていると思いますが、不公平が生じないためにも、更なる方法等十分検討され、その解消により一層努められることを切望する。 ・ 児童生徒の減少等に対応するため調理場の統合等はやむを得ないと思うが、耐用年数の経過した施設備品は財政状況厳しいとはいえ更新計画策定のうえ継続的に実施されるよう最善の努力を図ってほしい。 	

3 教育センター	項目(10)～項目(18)
-----------------	----------------------

(10)	教職員研修推進事業	評価	A
------	-----------	----	---

1. 平成22年度取組目標

平成23年度から小学校で、平成24年度から中学校で実施される新学習指導要領の理解を図り、教育課程の改善・充実を図る。また、若年層教員を中心とした教師力の向上に資する。

2. 取組の実施状況

①夏季研修（希望研修）

講座名	日時	研修内容	講師
新教育課程研修講座(1)	7月27日	生涯にわたって運動に親しむ子の体育の授業	保坂典江指導主事
新教育課程研修講座(2)	7月28日	困った保護者への対応マニュアル	星幸広千葉大学大学院研究科講師
新教育課程研修講座(3)	8月2日	教師人生の愉しみ	野口芳宏植草学園大学教授
新教育課程研修講座(4)	8月3日	児童・生徒が夢中になる道徳授業	柴田克君津市立亀山中学校教諭
新教育課程研修講座(5)	8月24日	言語活動の充実 国語と他教科をどう繋ぐか	寺井正憲千葉大学教授
「ふつつ再発見」研修講座	8月18日	富津のよさを発見する巡回研修	小澤洋文化係長
コンピュータ研修講座(1)	7月30日	写真・ビデオの編集	コンピュータ活用専門委員
コンピュータ研修講座(2)	7月30日	エクセル活用	コンピュータ活用専門委員
コンピュータ研修講座(3)	8月9日	パワーポイント活用	コンピュータ活用専門委員
コンピュータ研修講座(4)	8月9日	エクセル・パワーポイント応用	コンピュータ活用専門委員
教育相談研修会(1)	8月2日	子どもの心を開くことばの鍵	上田和子千葉県スーパーバイザー

教育相談研修会(2)	8月2日	信頼を得られる教師とは	川田卓也主幹
教育相談研修会(3)	8月3日	多様化する相談内容	小柴孝子子どもと親のサポートセンター主任指導主事
教育相談研修会(4)	8月3日	一歩先をゆく生徒指導を目指して	鈴木希彦長狭高等学校教頭
教育相談研修会(5)	8月4日	傷つく子どもたち～誰が・どこまで・どう対応～	菅野清治子どもと親のサポートセンター所長
教育相談研修会(6)	8月4日	長欠の減少に向けて	保坂亨千葉大学教授

②夏季研修以外の研修講座

新規採用教職員研修会・小中連携教育推進研修会・特別支援教育研修会・学力向上推進研修会を実施

3. 今後の課題と対応

希望研修は、受講者の関心が高い今日的な教育課題に関わる研修内容に絞ったことや講師の精選を行った結果、参加者は334名（前年比103名増）であった。

今後も、多くの教職員が参加したくなる魅力ある研修講座の開設に努めたい。

また、中学校において来年度から全面実施となる新学習指導要領の更なる理解を図るために、研修の一層の充実を図りたい。特に、本市の課題である「学力の向上」に資するための教職員の授業力の向上に向けた研修の充実が、来年度の課題である。

(11)	自立支援事業	評価	B
------	--------	----	---

1. 平成22年度取組目標

不登校、暴力行為、いじめ、児童虐待等の未然防止、早期発見・早期対応につながるような取組について支援し、問題を抱える児童生徒等の個々の状況に応じた支援の充実を図る。

2. 取組の実施状況

(1) 自立支援指導員配置

市内の小・中学校に自立支援指導員を配置することにより、不登校児童生徒やいじめ・児童虐待で深刻な問題行動等を起こす、または、起こすことが懸念される児童生

徒に対し、未然防止や早期発見・早期対応に向けた支援を行った。

4名の自立支援指導員を合計8校に配置し、支援した。

(2) サポートチーム会議運営事業

いじめ、暴力行為、児童虐待、少年非行などの学校だけでは対応できない問題行動等に適切に対応するため、サポートチームを組織して問題行動の予防・解決を図った。

平成22年度は、3回のサポートチーム会議を実施した。

(3) 訪問指導員活用事業

自立支援指導員により、不登校児童生徒の自宅等への訪問による相談・学習支援を行った。

3. 今後の課題と対応

自立支援指導員の人数が少なく申請校全てに配置できていないため、増員を図りたい。

(12)	適応指導教室事業	評価	B
------	----------	----	---

1. 平成22年度取組目標

不登校児童・生徒の自主的及び主体的態度の育成や人間関係づくりの構築を図り、原籍校への復帰を促進するとともに、本市の教育課題である長期欠席・不登校問題の解消を図る。

2. 取組の実施状況

適応指導教室に適応指導相談員2名を配置し、不登校児童・生徒の在籍する学校への復帰を促すための指導・援助を行った。

・適応指導教室「さわやか教室」運営事業

平成22年度 在籍者4名（中学2，3年）

延べ通級日数 231日

学校復帰者数 4名（2名は高等学校に進学）

・不適応児童生徒を対象とした体験学習事業

自然体験学習（ロープクライミング・野外炊飯・潮干狩り）・校外学習・高校説明会等に参加し、生徒の自己肯定感を高め、自信をつけることができた。

3. 今後の課題と対応

長欠・不登校児童生徒の学校復帰を支援するために指導員が2名では、適応指導教室の運営が難しいため、増員を図りたい。

(13)	社会科副読本作成事業	評価	A
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市教育施策「富津を愛し、富津の未来を託せる児童生徒の育成」の具現化に向け、また、社会科学習指導要領の目標にある地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについての理解を深めるために補助教材として社会科副読本を作成する。平成22年度は、小学校学習指導要領改訂に伴い、第10版を編集し、作成する。

2. 取組の実施状況

編集委員14名を委嘱し、編集委員が取材、編集した資料をもとに、年間5回の編集委員会議を行った。

教育委員会で監修を行い、出版社に印刷・製本を委託した。

3. 今後の課題と対応

富津市の児童の地域学習に対する興味・関心が深まり、学習への意欲向上につながる。

印刷・製本した1500部の社会科副読本は、平成23年度から平成27年度の5年間、市内全小学校の3年生に配布する。

(14)	教育相談事業	評価	A
------	--------	----	---

1. 平成22年度取組目標

児童・生徒の不登校や精神疾患等の問題は多様化・複雑化する傾向にある。また、発達障害の疑われる児童・生徒が増加傾向にある。専門医による教育相談を毎月1回実施することで、早期発見・早期解決にあたる。

2. 取組の実施状況

毎月1回、年間10回の専門医による教育相談を実施している。平成22年度は10回18人の教育相談を実施した。

3. 今後の課題と対応

発達障害が疑われる児童・生徒の増加により、相談件数も増えている。今後は学校・関係機関・医療機関との連携を密にしていくことが課題である。

(15)	特別支援教育推進事業	評価	A
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

発達障害者支援法（平成17年4月1日施行）を受け、発達障害児がその障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるようにするために、適切な教育的支援、支援体制の整備等を行う。

2. 取組の実施状況

特別支援教育推進チームによる市内小中学校17校への巡回訪問を実施し、個別の支援を必要とする児童・生徒への対応・支援方法について助言した。また、児童生徒を観察する中で、専門機関への相談等も進めている。

特別支援教育連携協議会では、幼保・小・中との速やかな連携、関係部局との連携等、特別支援教育の支援体制について協議を進めている。

3. 今後の課題と対応

市内小中学校の特別支援教育に対する支援体制は整ってきた。個別の支援計画等の作成も進んできている。しかし、保護者の理解・協力が得られず、十分な支援をすることができない児童・生徒もいるので、引き続き発達障害等に関して保護者や地域への啓発に努めたい。

平成23年度は、市雇用の特別支援教育指導員を3名から4名に増員することができた。有効に活用するとともに更なる増員に努めたい。

(16)	SE配置事業	評価	B
------	--------	----	---

1. 平成22年度取組目標

県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金により、市内小中学校にSEを派遣し、ICT機器を活用した授業支援・校務支援を行う。

2. 取組の実施状況

- ・ ICT機器やインターネット等を授業で活用する際の技術的支援や機器等の準備及び授業支援
- ・ 学校職員の校務及び授業におけるICT機器等の活用に対する支援及び助言
- ・ 学校ホームページの更新、リニューアル等
- ・ ICT機器を活用した教材及び校務に関する文書フォーム等の作成

3. 今後の課題と対応

市内小中学校17校のホームページを開設することができた。また、授業の準備や児童生徒へのICT機器を活用する際の支援や教職員の校務支援・助言等を行うことで校務の能率化を図ることができた。

今後は、学校ホームページの更新について、SEを講師として各校の担当者等を対象とした操作研修を行っていきたい。

(17)	外国人英語指導者招致事業	評価	A
------	--------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

外国語指導助手を外国語活動・英語科授業等に配置することによって学習の充実を図る。英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の育成、国際理解教育の推進、異文化交流等を図る。

2. 取組の実施状況

ALT 3名を市内小中学校全校に対して、全授業時間のおよそ1/2時間に配置できた。そのため、外国語活動及び英語科授業の充実に貢献し、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図ることができた。天神山小学校での公開研究会は、市内外から多くの関係者が集い、充実したものとなった。

小学校では、総合的な学習の時間における国際理解教育が推進され、児童の国際感覚の素地が培われた。中学校では、言語や文化に対して理解を深めることができた。

3. 今後の課題と対応

平成23年度は小学校の新学習指導要領が完全実施され、高学年に外国語活動が導入される。これに伴い、新たに3名の英語指導員を雇用し、外国語活動の全時間を複数で授業を行う態勢が整った。平成24年度は中学校の新学習指導要領完全実施により英語科の授業時数が増加する。さらなる事業の充実に努めたい。

(18)	小中連携教育推進事業	評価	A
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市教育施策「富津を愛し、富津の未来を託せる児童生徒の育成」の具現化に向け、教職員の意識改革を図り、9年間の共通指導の積み重ねの中で、地域社会との信頼関係を深め、知・徳・体の向上をめざす。

2. 取組の実施状況

市内5中学校区を研究指定し、各中学校区の特色を生かして研究を進めてきた。

また、富津市小中連携教育推進委員会を組織し、各地区の情報交換・連絡・調整を行いながら、研究の活性化を図った。さらに全体研修の場を設定し、中学校区の実践を発表し、情報を共有できるように努めた。

各地区の特徴を生かし、知・徳・体の向上に取り組む実践が行われている。

3. 今後の課題と対応

平成15年度より9年間の構想計画で、進めてきた小中連携教育も平成23年度は、最終年度を迎える。9カ年の取り組みのまとめを確実に行うと共に、富津市の財産である小中連携教育の実践成果を今後もさらに継続、発展させていく。

平成23年度からは小中連携教育の目的の一つである、学力向上に向けて、市雇用の指導補助教員3名を4中学校に配置して、有効な活用を図りながら、きめ細かな指導の充実に努めたい。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	A
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度から小学校新学習指導要領が完全実施され（平成24年度から中学校）教育課程の改善のための様々な取り組みと充実を図る努力がなされていると思う。 ・学校現場では若年層教員の増加に伴い、一人一人の指導力、教師力の向上をめざして様々な研修が推進されている。夏季研修をみても、参加したくなる魅力ある研修講座となっていると思うので、前向きな取り組みと力量UPを期待したい。 ・本市の課題である「学力の向上」をめざし、さらに教師の授業力の向上を図る研修の充実をお願いしたい。 ・9年間の構想計画で進めてきた小中連携教育の最終年度ということで、実践の成果をまとめると共に、今後もさらに継続、発展させてほしい。9カ年プランの富津市小中連携教育を高く評価したい。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の夏季研修の参加者が前年より大幅に増加したことは研修内容を今日的に絞ったことと等によるものと思われませんが、今まではどうだったのか、それらをふまえて精査のうえ今後の研修の一層の充実を図り、教職員の授業力向上のため努力されることを望む。 ・市内全校にホームページを開設できたことは校務の能率化を図るうへと、IT社会に対応するためにも有意義なことであり、今後はホームページの更新などと内容の充実を図り有効活用に努めることを切望する。 ・総合的には、多くの事業でそれぞれの課題に取り組んでおり良く対応されていることに評価するとともに、今後更なる事業の充実を努められたい。 	

4 生涯学習課	項目(19)～項目(33)
----------------	----------------------

(19)	社会教育指導員設置事業 家庭教育指導員設置事業	評価	B
------	------------------------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

社会教育・生涯学習関係事業や公民館事業について、社会教育指導員2名、家庭教育指導員1名により指導、助言を行い社会教育・生涯学習や家庭教育に関する相談や社会教育団体の育成等にあたる。

2. 取組の実施状況

社会教育指導員2名が、公民館・市民会館の主催事業等に積極的に関わり、市民サービスの向上に努めるとともに、館運営にも適時アドバイスを受けることができた。また家庭教育指導員1名から家庭教育学級等の運営についての指導・助言を受けることができた。

3. 今後の課題と対応

本市の社会教育指導員の定数は6人以内、家庭教育指導員の定数は3人以内とされている。現状は社会教育指導員2人、家庭教育指導員1人の指導員の努力で補われているが、富津市生涯学習推進計画の施策推進を図るため、今後は漸次増員を図り、市民サービスのさらなる向上を図る対応が必要である。

(20)	生涯学習推進事業関係事業	評価	B
------	---------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

平成23年度から平成27年度までを計画期間とした「富津市第3次基本計画」との整合性を保ちながら、市民の意見や要望を取り入れた新たな「富津市生涯学習推進計画」を策定するとともに、「いつでも どこでも 誰でも」学べる生涯学習の機会拡充を図るため富津公民館において生涯学習推進大会を実施するなど、各種事業を展開する。

2. 取組の実施状況

新たな「富津市生涯学習推進計画」を作成し、平成23年5月には市内全戸に概要版を配布する。平成23年2月6日富津公民館において第11回生涯学習推進大会を開催し、オープニングに君津商業高等学校の吹奏楽部、講師に作詞・作曲・編曲家の花岡優平氏をお招きし、「花岡優平トーク&ライブ人生は音楽と共に」と題しての講

演を行った。

生涯学習情報提供誌を 17,500 部作成し、市内全世帯と関係機関に配布したほかに「ふっつ教育かわら版」でも周知を図り、一人でも多くの市民が生涯学習に関わることができるよう努めた。

多様化する生涯学習への要求に応えるため、人材バンク「まちの先生」登録制度の利用を促進し、優れた知識・技術を有している人々に登録をしてもらい、市民が有効活用できるように努めた。

生涯学習バスの運行を業務委託方式に切り替え、土日にも利用しやすいようにした。

3. 今後の課題と対応

生涯学習推進大会は内容を充実させ市民にホームページや地元紙、広報紙、広報車などを通じてPRを行い参加者の増加を図りたい。人材バンク「まちの先生」も有効活用されてきている状況であるが、今後も生涯学習情報提供誌などを活用し、より一層のPRに努めたい。

新たな「富津市生涯学習推進計画」に基づき、市民一人ひとりが生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも楽しく学ぶことができ、その成果が活かされるような生涯学習社会の実現を目指したい。

(21)	家庭教育支援事業	評価	B
------	----------	----	---

・家庭教育の充実

1. 平成22年度取組目標

小・中学校の保護者が主体的に、家庭教育や親子のふれあい活動を実施することにより、家庭を中心とした子どもたちの健全育成及び家庭教育力向上を図る。

2. 取組の実施状況

小・中学生の保護者や子どもを対象に、家庭教育学級を5小学校と1中学校で開設し、社会教育指導員や家庭教育指導員のほかに地域に密着した講師を招くなどして、家庭教育に対する知識の習得に努め親子のふれあいとそこから生まれる良好な人間関係を学ぶことができた。(延べ22回、584人参加)

3. 今後の課題と対応

市内の小・中学校(17校)全ての学校で家庭教育や親子のふれあい活動の実施に努めるとともに、また、いかにより多くの保護者の方に興味を持ってもらい特に父親の参加していただけるか内容の見直しやPR方法も検討する。

(22)	視聴覚教育の振興事業	評価	B
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

現代社会において、幼児からお年寄りまで視聴覚教材の活用は必要不可欠となっており、それらを視聴覚教材センターで一括管理し、継続して活用することにより視聴覚教育の推進を図る。

2. 取組の実施状況

視聴覚教材センターで保管している 16 ミリフィルム・ビデオテープ・DVD等を貸出し利用促進を図るとともに、視聴覚教材の普及活用のため、16 ミリ映写機操作資格者を育成する目的をもって操作技術講習会、操作許可者を対象とした研修会をそれぞれ実施することができ、視聴覚教育の振興を図ることができた。

3. 今後の課題と対応

貸出し利用者数が減少傾向にあるため、広報ふつつ・生涯学習情報提供誌・教育かわら版や市のホームページ等でPR活動に努めるほか、学校、保育所等に利用を働きかけるとともに 16 ミリ映写機操作資格者の増加も図っていききたい。

(23)	青少年健全育成関係事業	評価	A
------	-------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

子ども会や青少年相談員等の協力により、スポーツ・レクリエーション、ボランティア等の体験活動を実施し、次代を担う青少年の健全育成に努める。

2. 取組の実施状況

(1) 子ども会育成連絡協議会活動

子ども会活動及び組織の充実を図るため、各種の子ども会行事をはじめ、ジュニアリーダー研修会・育成者講習会を実施し、子ども会活動の充実が図れた。

また、平成 19 年度より市主催のジュニアリーダー初級研修会に助成金を交付し、参加者の負担減に努めている。

(2) 青少年相談員連絡協議会活動

6 7 名の青少年相談員を中心に、文化祭の協力、新年子ども大会、キャンプ大会、研修会等の事業を実施し、青少年健全育成活動の推進が図れた。

(3) 青少年問題協議会活動

行政・学校及び各種市民団体代表が集まり、青少年問題とその対策について、警察や学校で把握している事例を中心に協議を行い、その結果を各種団体が活用することにより青少年の健全育成に努めることができた。

(4) 子どもセンター設置事業

子どもの地域における様々な体験活動を充実させ、家庭教育を支援する体制を整備するため、体験活動の機会や家庭教育の支援に関する情報を収集し、子ども・体験・ボランティア情報誌を発行することができた。

3. 今後の課題と対応

若い世代の減少により、青少年相談員等の任期満了に伴う委員の人選に苦慮している。

青少年相談員や子ども会等の人材育成を図り、地域教育力を高め、学校・家庭・地域連携による青少年健全育成を進めていきたい。

(24)	図書館関係事業	評価	B
------	---------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市民のリクエストなどを参考に選書して、市内各読書施設等への新刊図書購入及び移動図書館車の巡回運行により、より充実した図書館運営を図る。

2. 取組の実施状況

市内を3地区に分けて、毎月6回の運行により、16ステーションを月1、2回の割合で移動図書館車の巡回サービスを実施した。

通常の本籍購入については1,642冊で、移動図書館に445冊・富津公民館に382冊・中央公民館に415冊・市民会館に400冊をそれぞれ配本した。

また、国庫補助事業を活用し、通常高価で購入が困難な専門書・絵本等を1,521冊購入し、移動図書館に326冊・富津公民館に383冊・中央公民館に509冊・市民会館に303冊をそれぞれ配本した。

平成22年度の本籍購入総数は3,163冊で、内訳としては、移動図書館に771冊・富津公民館に765冊・中央公民館に924冊・市民会館に703冊をそれぞれ配本し、蔵書の充実を図り利用者のサービス向上に努めた。

3. 今後の課題と対応

富津市には公立図書館が無いため市内各読書施設で市民が必要とする資料に対応できない事もあり近隣市の図書館で借りている状態である。

また、必要な図書を探すときに図書検索システムが導入されていないので、職員の勤務時間内の電話による問い合わせしかできない状況である。

このようなことから平成 23 年度富津公民館・中央公民館・市民会館及び移動図書館車の蔵書に I C タグ付きバーコードラベルを貼付し、早期に図書検索システムの導入を図り、利用者の利便性、サービス向上を目指したい。

なお、現状の施設では蔵書の収容限度を迎えているため書庫を確保することも必要となってくる。

また、富津市は市域も広く高齢化率も高いため、移動図書館車によるステーションの見直しなどを検討しきめ細やかな市民サービスに努めたい。

(25)	文化財保護関係事業	評価	B
------	-----------	----	---

① 指定文化財管理費補助事業

1. 平成22年度取組目標

市内にある指定文化財の所有者・管理者等に対し維持管理費を助成して、指定文化財の保護・保存を図る。

2. 取組の実施状況

県および市指定文化財の 22 件に対し、指定文化財の規模や面積、管理の力量に応じて、維持管理費用の一部助成を予算の範囲内で行った。

区 分	名 称
県 指 定	三柱神社本殿など 5 件
市 指 定	三条塚古墳など 17 件

3. 今後の課題と対応

古墳や横穴群など規模・面積の大きい文化財について、樹木伐採・草刈など維持管理に要する労力も大きく、その作業量に見合った補助金を支給しているとは言い難い。

なお、本年度まで「指定文化財管理費補助金」として支出していたものに対し、監査委員から今後報償費として支出しては如何かという指摘を受け、改善策を検討した結果、平成 23 年度から指定文化財の管理費を報償費として支出することとした。

② 文化財周知板設置事業

1. 平成22年度取組目標

指定文化財等に説明板を設置することにより、一般市民や史跡見学者へ内容の周知を図る。

2. 取組の実施状況

平成22年度には、次の文化財説明板を設置した。

1. 諸岡太左衛門の墓（富津市金谷2413・華蔵院）
2. 小久保藩邸・藩校跡（富津市小久保字弁天ほか）
3. 東京湾海堡（富津市富津地先）

上記のうち、1は既設の周知板の老朽化に伴う付け替え、2と3は指定文化財ではないが、重要史跡の一つであり、説明板設置に対する市民からの要望が強く出されているものであったため、設置したものである。

3. 今後の課題と対応

指定史跡への周知板の設置については、個人所有などの理由により設置の必要が認められない一部のものを除いて、ほとんどのものへの設置が終了している。今後は、老朽化に伴う周知板の付け替え作業とともに、未指定でありながら重要度の高い文化財についても周知板の設置を行っていく。

③ 市文化財整備事業

1. 平成22年度取組目標

国指定・県指定史跡など市内の主要文化財に対して、樹木の伐採や草刈を実施するなど維持・管理を行う。

2. 取組の実施状況

事業内容 内裏塚古墳群樹木伐採

3. 今後の課題と対応

内裏塚古墳の樹木伐採作業は二間塚共有地管理委員会に委託して継続的に行っており、平成22年度には後円部東側区域の伐採を行った。当事業については今後も継続してゆく予定である。

一方、飯野陣屋の土塁の樹木伐採は、平成21～23年度は緊急雇用創出事業の中で行っているが、それ以降の維持管理について検討する必要がある。

(26)	市内遺跡発掘調査事業	評価	A
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

埋蔵文化財が所在する土地に個人住宅等を建設する場合に、事前に発掘確認調査を実施して記録を作成し、遺跡の保存・活用を図る。また内裏塚古墳群のような重要遺跡に対して範囲確認などの学術調査を実施する。

2. 取組の実施状況

平成22年度には、個人住宅建設に伴う飯野陣屋本丸跡、北笹塚遺跡（第5地点）、蕨塚古墳、野々間古墳の発掘調査を、国及び県補助事業により、富津市教育委員会の直営事業として実施した。本年度は調査規模が大きく、予算を使い切る形となったため、平成22年度の発掘調査報告書は平成23年度に作成する予定である。

3. 今後の課題と対応

市内には約450ヶ所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が所在し、住宅建設等の開発行為に際しては、つねに文化財保護との調整が避けられない。現行の補助金制度を活用しながら、個人住宅等の小規模開発に伴う確認調査に対応していく。

なお、当事業には組み込むことのできない市で実施する公共工事に伴う調査や、遺跡の有無について正確な情報を得るための試掘に速やかに対応できるよう予算を確保し、また過去に行われた公共事業に伴う調査の出土品を整理し、調査成果を報告書にまとめ調査業務を完了させることが望まれる。

(27)	民間開発発掘調査事業	評価	A
------	------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

埋蔵文化財が所在する土地に、民間開発が行われる場合、事前に発掘調査を実施して記録を作成する。

2. 取組の実施状況

平成22年度には、民間の社会福祉施設建設に伴う東天王台遺跡（第6地点）の発掘調査を行った。

3. 今後の課題と対応

市内遺跡発掘調査事業（補助事業）では対応できない営利目的の民間開発に伴う発掘調査を全額事業者負担によって実施する。調査面積・内容が市職員の事務量を超え

ているときには、民間調査機関によって発掘調査を行う場合もあり、市は調査指導という立場で関与することになる。

(28)	富津市直営工事に伴う発掘調査事業	評価	A
------	------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

埋蔵文化財が所在する土地に、市の直営工事が行われる場合、事前に発掘調査を実施して記録を作成する。

2. 取組の実施状況

平成22年度には、富津市消防団第2分団第1部詰所建設に伴う南口遺跡（第2地点）の発掘調査を行った。

3. 今後の課題と対応

富津市の直営事業に伴う発掘調査は市の費用負担によって実施する。調査成果の報告については、軽微なものについては『富津市文化財集報』において行う。なお規模の大きな調査が発生した場合、民間調査機関によって発掘調査を行う場合もあり、市は調査指導という立場で関与することになる。

(29)	青堀駅自由通路床サイン陶板製造事業 (まちづくり交付金)	評価	A
------	---------------------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市外から訪れる内裏塚古墳群への見学者、ならびに地域住民や児童生徒への周知を図るため、青堀駅の西口と東口を結ぶ自由通路の床面に、主要古墳の方向と距離を表示した陶板を設置する。

2. 取組の実施状況

青堀駅自由通路の床面に、上野塚古墳・内裏塚古墳・九条塚古墳・三条塚古墳・稲荷山古墳・割見塚古墳・古塚古墳の合計7枚の、古墳の方向と距離を記した陶板を設置した。

3. 今後の課題と対応

青堀駅の西口と東口に設置する史跡案内板、および平成23年度に開館予定の青堀

駅東口史跡情報案内所と併せて、内裏塚古墳群見学者への便宜を図るとともに、南関東屈指の古墳群の存在を広く市民に周知する。

(30)	富津市文化財ガイドブック印刷製本事業 (まちづくり交付金)	評 価	A
------	--	------------	----------

1. 平成22年度取組目標

富津市では昭和63年度に『富津市の文化財』という冊子が刊行されてから、市内全域の文化財を扱った冊子が作られていない。『富津市の文化財』についてはすでに在庫がなく、また平成以降に指定文化財となった物件も多い。今回まちづくり交付金の対象地域となった青堀駅周辺の内裏塚古墳群を中心に、全ての指定文化財と、指定外の主要な文化財も含めた市内の文化財を一冊にまとめ、市民や市外からの見学者への便宜を図る。

2. 取組の実施状況

A5判、両面カラー印刷176頁、発行部数30,000部の仕様で、富津市内の指定文化財、主要文化財を網羅した冊子を刊行し、史跡や文化財見学に際しての参考資料とする。

3. 今後の課題と対応

ガイドブックの発行によって、市内の史跡見学会の機会の増加、および市外からの見学者の増加が見込まれ、史跡や文化財を通じた人々の交流やまちの活性化を図ることができる。

(31)	青堀駅史跡案内板設置事業(まちづくり交付金)	評 価	A
------	-------------------------------	------------	----------

1. 平成22年度取組目標

青堀駅周辺には千葉県を代表する古墳群である内裏塚古墳群が分布しており、鉄道やバスを使って訪れる見学者も多い。しかしながらこれまでは、古墳群の全体が分かる地図の案内板がなく、案内者がいなければ見学が難しい状態だった。案内板を設置することにより、古墳見学者への便宜を図り、また案内者にとっても説明しやすいようにする。今回、設置した史跡案内板は次のとおりである。

- ①青堀駅西口「青堀駅周辺史跡案内図」
- ②青堀駅東口「内裏塚古墳群案内図」

- ③内裏塚古墳案内標識（大堀中央2ヶ所、大堀亀下1ヶ所、大堀坂下1ヶ所）合計4ヶ所

2. 取組の実施状況

- ①青堀駅西口の案内板は、表示面の高さ160cm×幅160cmのステンレス製で、富津市役所や展示室のある富津公民館も含めた広域の地図情報が得られるようになっている。地図の版面はフルカラーである。
- ②青堀駅東口の案内板は、御影石製で長さ210cm×幅160cmの前方後円墳の形状をしたものであり、版面は製である。内裏塚古墳の詳細図で、個々の古墳への経路が分かるようになっており、主要古墳の航空写真も掲載している。版面はフルカラーである。
- ③内裏塚古墳案内標識は、アルミ樹脂複合板製で、高さ148cm×幅50cmの両面である。内裏塚古墳への方向と距離を、付近の主要な交差点において表示するものである。版面は4色刷りである。

3. 今後の課題と対応

古墳群が分布する二間塚・下飯野・青木等の地区は狭い道が入り組んでいる場所が多く、古墳への経路も分かりづらかったが、案内板を整備することにより、少しでも見学がしやすくなり、見学コースをあらかじめ考えておくことが可能になる。古墳群マップや史跡情報案内所での説明文と合わせ、古墳群見学がよりしやすくなるよう工夫する。

(32)	古墳案内人育成支援事業	評価	B
------	-------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

平成19年度にガイドボランティアの説明マニュアルとして『内裏塚古墳群総覧』を作ったが、その後平成22年度にかけて内裏塚古墳群内での調査が相次ぎ、内容の改訂が必要となった。そこで『内裏塚古墳群総覧（増補改訂版）』を作り、ガイドボランティアの新たなマニュアルとする。

2. 取組の実施状況

『内裏塚古墳群総覧（増補改訂版）』を作成したほか、職員とガイドボランティアによる古墳群の案内、小学校への出前授業などを行った。

3. 今後の課題と対応

現在のところガイドボランティアだけで独自に案内をしている件数は少なく、大半の見学会に生涯学習課職員が随行している状況である。ガイドボランティアの活動を長期継続していくためには、代表者や役割分担、当番を決めるなど、組織化していくことが必要となってくる。

(33)	高宕山のサル被害防止事業	評価	B
------	--------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

天然記念物「高宕山のサル生息地」のニホンザルを管理し、サルによる農作物の被害防止に努め、地域住民と野生動物との調和のとれた共存を実現する。

2. 取組の実施状況

平成22年度には、例年に引き続き、被害防止事業（電気柵の維持管理、被害多発期の追い上げ、被害実態調査）、生態調査、個体数管理、環境改善事業を実施した。

3. 今後の課題と対応

今後は千葉県自然保護課が実施している「特定鳥獣保護管理計画」と歩調を合わせながら、これまでの当事業の在り方を見直し、指定地内の環境改善や生態調査を主目的化してゆく必要がある。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	A
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津市第3次基本計画のもと、富津市生涯学習推進計画が作成され、活動の充実が図られている。今年度の花岡優平氏の講演も良かったが、講師の人選に苦慮されていることと思う。有名な地元出身者をお願いして「我が故郷を語る」とか、人生を語っていただくというのはどうか。（例えば松竹映画プロデューサー佐生哲雄氏とか競輪の森田茂氏・野球の長谷川勉氏・タレントの保田圭さん…等） ・市の文化財保護について、説明板設置や樹木伐採・草刈など、大変な苦勞と尽力が伺える。市の文化財は我が街の自慢・誇りだと思う。文化財保護、指定文化財の管理費については、さらに検討し、維持管理を充実させていくべきである。 ・「古墳の里ふれあい館」が立派に出来上がった。古墳の街としての再認識やPRにつながる。ボランティアガイドの派遣や建物の維持管理等、大変な面が発生すると思われるが、我々市民も是非大切にしながら利用していきたい。 ・「ふるさとバスツアー」の企画は、富津の再発見につながる良いイベントだと思う。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンク「まちの先生」は市民が有効活用できる制度であるが、生涯学習情報提供誌や「ふつつ教育かわら版」を各家庭に配布し周知を図るのもあまり活用されていない現状で、更なるPR方法など検討し利用を高める努力が必要である。 ・図書館がない当市で移動図書館車及び公民館、市民会館の3施設で市民の読書意欲を満たしているなかで必要な図書を探すときの検索システム未導入は、IT社会での対応の遅れであり、市民サービスの観点からも早期導入を図られるようお願いしたい。 ・文化財事業については、国・県指定史跡をはじめ、内裏塚古墳郡などを含め観光と一体となる環境整備を図るため、国のまちづくり交付金の対象地域となった青堀駅周辺を中心に、全ての指定文化財等市内の文化財を一冊にまとめたガイドブックを作成したほか、青堀駅西口と東口に史跡案内板を設置するなど見学者の利便性を考慮した事業を展開されたことは良いことであり、県内外からの見学者への便宜が図られ多くの方々が訪れ、まちの活性化の一翼となると思考される。引き続き、PR活動やボランティア教育を積極的に推進され更なる文化財事業に寄与されることを願います。 	

5 体育振興課	項目(34)～項目(37)
----------------	----------------------

(34)	社会体育振興事業	評価	A
-------------	-----------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

市民が、いつでも気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる各種イベントの検討や、生涯を通じたスポーツ振興の方策等について調査研究を行い当面する社会体育の諸問題について、特に生涯スポーツ振興の立場から研究討議し、体育指導委員の資質の向上を図る。

また、市民の健康と体力づくりを目的に、体育指導委員及びスポーツ・レクリエーション推進員の主導により行事を実施するほか、国のスポーツ振興計画に基づき平成22年度までに全国の各市町村に1つは総合型地域スポーツクラブを立ち上げるという目標達成に努める。

2. 取組の実施状況

大会及び行事名	会場名	参加人員
富津市少年野球夏季大会	臨海野球場他	150
富津市教育長杯争奪少年サッカー大会	臨海陸上競技場	161
第28回F T S杯争奪少年剣道大会	総合社会体育館	112
第17回F T S杯争奪少年柔道大会	富津中学校武道場	266
「県民の日」記念第27回グラウンドゴルフ大会	佐貫運動広場	103
「県民の日」記念第27回バドミントン大会	総合社会体育館	290
第29回F T S杯争奪少年野球大会	臨海野球場他	153
第16回健康ウォークラリー大会	市民ふれあい公園	72
君津地区スポーツレクリエーション祭歩け歩け大会	富津公園	264
第16回F T S杯争奪グラウンドゴルフ大会	佐貫運動広場	84
第29回F T S杯争奪インディアカ大会	総合社会体育館	8
第19回F T S杯争奪ソフトバレーボール大会	総合社会体育館	41
君津地区スポーツレクリエーション祭(インディアカ・ソフトバレーボール・グラウンドゴルフ)	袖ヶ浦市臨海スポーツセンター	37
富津市教育長杯争奪少年野球新人大会	臨海野球場他	150
第35回ママさんバレーボール大会	総合社会体育館	187
第40回元旦歩こう大会	富津・大佐和・天羽地区	408
第40回新春バドミントン大会	総合社会体育館	242
第23回新春グラウンドゴルフ大会	佐貫運動広場	107

スポーツ教室（毎週水・土曜日）	総合社会体育館 佐貫小学校体育館	4 6 6 8
第33回千葉県民マラソン大会	総合社会体育館周辺	3 3 6 8

※2月20日、会員等約200人が参加して設立総会が開かれ、総合型地域スポーツクラブ「佐貫クラブ」が誕生した。

3. 今後の課題と対応

研修会や講習会を実施し新しい競技種目を取り入れ多くの方がスポーツに親しめるよう検討するとともに市民にホームページや地元紙などを通じてPRを図り参加者の増加を図りたい。

総合型地域スポーツクラブ「佐貫クラブ」の運営に可能な範囲で支援を行いたい。

(35)	ふれあいスポーツフェスタ事業	評価	B
------	----------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市民の手づくりによる健康づくり、体力づくりを目的に新しい発想と視点のもと実施する。

2. 取組の実施状況

事業名	金額(円)	事業内容	成果・効果	
ふれあいスポーツフェスタ	1,482,489	第1部会：ストラックアウト、フリーキック、ドッジビー 第2部会：グラウンドゴルフ、ドッジボール、輪投げ 第3部会：100m・800m・1500m・4×100m、ゲートボール、卓球 第4部会：お楽しみ抽選	内 訳	人 数
			参加者	2,207
			大会役員	319
			観 客	250
			合 計	2,776

3. 今後の課題と対応

平成13年度より市民手づくりによるスポーツフェスタを実施しているが参加者が横ばいの状態のため、実行委員会にて、今後のあり方について検討する必要がある。

(36)	市体育施設管理運営事業	評価	A
------	-------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市民の心身の健全な発達と、明るく豊かな市民生活の形成に寄与し、市民の間にスポーツについての理解と関心を深め、かつ、積極的にスポーツをする意欲の高揚を図ることを目的として体育施設が設置されている。平成18年度より指定管理者制度を導入し財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として管理を実施してきたが平成21年3月31日を持って指定期間が満了となり、平成21年度より新たに5年間で指定期間として財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として体育施設の管理運営を実施している。

また、浅間山運動公園テニス場は、昭和60年に全天候型アスファルト系コートが4面整備され、24年が経過する中、老朽化が進んでいるため計画的に整備する。

2. 取組の実施状況

施設名		利用回数	利用人員	使用料(円)
富津運動広場		88	1,691	151,310
新富運動広場		108	7,260	118,340
浅間山運動公園		383	1,920	テニス場 652,790
		92	3,599	野球場 436,500
総合社会 体育館	主体育館	395	50,137	1,149,465
	小体育館	517	7,452	782,490
	トレーニング ルーム等	27	581	65,200
合計		1,610	72,640	3,356,095

浅間山運動公園テニス場は平成21年度に4面の内2面を全天候型人工芝に改修し、平成22年度は残りの2面の内1面を全天候型人工芝に、もう1面の全天候型アスファルト系コートは表層補修工事を実施した。

東日本大震災の発生に伴い、3月後半の夜間利用を休止した。

3. 今後の課題と対応

土日、祝祭日の利用者は多いが平日の昼間の利用者の増加を図る方策が必要となる。市および指定管理者のホームページ、広報紙、地元紙などを通じてPRを図り利用者の増加を図る。

利用者の理解を得て、計画的な節電に取り組む。

(37)	第65回国民体育大会推進事業	評価	B
------	----------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

富津市で開催される軟式野球競技は広く国民に愛され親しまれてきた。このような意義深い大会をゆめ半島千葉国体富津市実行委員会が中心となって、各種団体、市民、競技団体、行政等の協働により、簡素な中でも温かみのある富津市ならではのおもてなしを実施するため、広く市民へ国体開催を周知し気運の醸成を図る。

また、軟式野球競技会の円滑な運営を図るため、軟式野球会場関係5市と千葉県野球協会構成する「ゆめ半島千葉国体軟式野球競技連絡協議会」で、競技運営面の諸問題等について協議を行う。

富津市では、副市長を本部長とする実施本部を立ち上げ諸準備及び大会運営を行う。

2. 取組の実施状況

- 県補助金（第65回国民体育大会運営費補助金、第65回国民体育大会競技用具補助金）の申請及び精算業務
- ゆめ半島千葉国体富津市実行委員会総会、専門委員会の開催
- 啓発用横断幕を臨海野球場に設置。横看板、広告塔をふれあい公園駐車場及び大貫駅に設置
- 市内公共機関、集客施設にのぼり旗設置、ポスター掲出
- 市内小中学校児童、生徒にチーバくんグッズ配布
- 市民野球春季大会、少年野球市長杯を国体記念大会として共催
- 各種イベント、スポーツ大会に国体リーフレット、ポケットティッシュ、ピンバッチ等配布
- ボランティアによるおもてなしの花試験栽培（青堀駅東口ロータリー、市役所、ふれあい公園、青木ガスト前 5, 100株）
- イベント時にチーバくんの着ぐるみを活用した国体啓発
- 千葉県主催の各種会議への参加
- 千葉県野球協会、袖ヶ浦市、君津市、館山市、南房総市とで構成する「軟式野球会場5市連絡協議会」の定例的な開催
- 協賛企業の募集
- 広報ふつつやホームページ等を活用した啓発
- ふれあい公園及び青堀駅等のクリーンアップ作戦の実施
- 全日本軟式野球連盟評議員会への参加
- 競技会補助員養成講習会
- 選手、役員、来訪する方々の輸送について千葉県バス協会との連絡調整
- 選手の配宿
- 監督会議の開催
- 競技会場の仮設設備及び誘導看板等設置

- 軟式野球競技会の開催（平成22年9月26日から9月29日）
- 富津市特産品等の無料サービス
- 後催県事業概要説明会の実施

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が気軽にスポーツレクリエーションを楽しめるよういろいろと検討をし、生涯スポーツ振興の向上に努めている。 ・ゆめ半島千葉国体軟式野球競技については、諸準備、運営等、大変であったと思うが、後半は、天候に恵まれず、いまいち、盛り上がりには欠けた実施となったようだ。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のスポーツ活動は比較的盛んに行われている。これは市民の健康と体力づくりを目的に体育指導員及びスポーツ・レクリエーション推進員の主導による行事をはじめ各競技団体関係者の努力により多くの方がスポーツに親しみ効果をあげているものと考えられます。 また、体育施設は土日、祝祭日の利用者は多いが、平日の利用者の増加を図るため、あらゆる方法によるPR活動が必要と思われる。 ・市民手づくりによるスポーツフェスタは実施以来10年を経過し参加者が減少傾向にあり、事業内容等の見直しをはじめ発想の転換により今後のあり方について十分検討する必要がある。 ・ゆめ半島千葉国体は、本市では軟式野球競技が開催され、市民をはじめ各種団体の協力により簡素ななかで、市ならではのおもてなしがある程度実施できたことと思われる。 また、これを契機に野球はもとより、各スポーツ全体の充実が図られることを期待したい。 	

6 富津公民館	項目(38)～項目(40)
---------	---------------

(38)	富津公民館管理運営事業	評価	B
------	-------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

生涯学習の基盤であり、社会教育施設の中核でもある公民館の、施設の充実と適正な運営を図る。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成19年度	目標年 平成22年度	達成状況
施設整備	施設改修	施設充実	整備中

2. 取組の実施状況

市民の学習、文化活動の拠点施設として適切な保守管理を行い、安心、安全で利用者に親しまれる公民館づくりを進め、サークルや文化、スポーツ・レクリエーション活動等の利用促進による地域文化の向上を図った。

3. 今後の課題と対応

富津公民館は、昭和59年度に竣工して以来26年が経過し、施設の各所に老朽化が目立ち始め、設備等の修繕件数が毎年増加していることから、今後は、公民館運営や事業活動に支障をきたすことのないよう、計画的な改修等について検討する必要がある。

市民に開かれ利用しやすい公民館として、施設の維持管理に努めるとともに、東日本大震災に伴う節電について、利用者に協力をお願いしていく。

(39)	成人式事業	評価	A
------	-------	----	---

1. 平成22年度取組目標

新しく成人となった青年を祝福するとともに、社会の形成者としての自覚を高め、権利と義務についての認識を深める。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成19年度	目標年 平成22年度	達成状況
成人式参加者数	480人	410人(確定)	計画どおり

2. 取組の実施状況

成人を祝って、富津公民館を会場とした式典を平成 23 年 1 月 9 日に開催し、新成人の意見発表のほか記念品の贈呈等を行った。

今年の新成人該当者は 526 人で、内 410 人が式典に出席し出席率は 77.9%であった。

3. 今後の課題と対応

富津市では、公民館運営審議会の審議を経て、新成人への記念品として全体の集合写真を贈呈しているが、現在、県内で全体集合写真を記念品として贈呈している例がほとんどない状況である。

また、4 年前より「成人の日」の前日に式典を開催しているが、その年によっては、消防出初式と時間が重複するため、消防本部との事前調整が必要となる。

次代を担う新成人を祝福、激励することは、豊かな地域づくりを推進してゆく上で、大変意義深く重要であることから、式典の内容等について適宜検討し、今後も継続実施すべきものとする。

(40)	富津公民館学級・講座関係活動事業	評価	B
------	------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市民の生涯学習に対する意識の高揚と学習意欲の向上を図り、地域文化の発展に寄与する。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成 19 年度	目標年 平成 22 年度	達成状況
学級講座数	20 学級	15 学級	13 学級 次年度 14 学級 (予定)

2. 取組の実施状況

対象別（婦人・成人・高齢者等）や課題別（歴史文化・工芸・園芸・健康）の 13 学級・講座を開設して学習内容の充実に努めるとともに、利用団体等に発表活動の場を提供するなど幅広い公民館事業を展開し、市民の多様な学習参加や自主活動等、地域文化の向上を図った。

学級・講座開催状況

平成23年3月31日現在

	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	高齢者教室	8	406	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るため、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。
2	女性フォーラム	9	188	生活に密着した問題から衣・食・住に関する様々な内容を学習すると共に、作品の製作や意見交換を通して、地域の中での交流を図る。
3	園芸教室	10	186	花や樹木の手入れ、管理方法から、草花の種からの育て方、鉢の寄せ植え、樹木の移植、用土作りなど、園芸技術を学習する。
4	男の料理教室	8	210	手軽に作れる日常の惣菜など、初歩的な調理技術と酒の肴など、男性ならではの実践的な料理づくりを学ぶ。
5	東京湾学講座	13	727	富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化、自然などについて、幅広い知識を学び、また探査会を実施し学習していく。
6	ヨガ教室	16	253	呼吸法を中心に、二人組での操作法によるほぐし時間を取り入れ、運動不足や生活習慣病の改善、ストレスに負けない心を磨く。
7	介護入門講座	6	34	介護の基礎的な知識と実践についての指導を通し、様々なケースの介護知識の習得と体験を通して障害者等の介護法を学ぶ
8	健康体操教室	9	199	菜の花体操・ボール体操・リズム体操・ストレッチなどを織り交ぜた楽しい体操を通して、心と体をリフレッシュさせる。
9	わらべ歌教室	8	167	乳幼児と保護者を対象にして、子育ての中に、わらべ歌遊びを取り入れ、親子のふれあいを深める。
10	韓国語教室	18	313	日本の隣国である韓国の言語と日常会話を学び、韓国の伝統文化についても、あわせて学習する。
11	パソコン教室	6	79	パソコンの初心者を対象に、基本操作と文書作成（ワード）・表計算（エクセル）・インターネット接続等を習得する。
12	大人チャレンジ教室	1	11	日常生活の中では、なかなか体験できない伝統文化・技術などにチャレンジする。
13	初級英会話教室	9	74	初心者を対象に、基本的なあいさつや海外旅行でも活用できる日常の英会話を学ぶ
	合計	121	2,847	

3. 今後の課題と対応

公民館活動には、地域住民の生活課題、地域社会の共通課題など、多様化する市民

ニーズに対応した学習の機会を、継続的に提供することが求められているが、人員的に限られた中での対応は困難な状況にある。

そのため、今後も事業内容や学習手法等を十分検討するとともに、利用団体や地域の各種団体等と連携して、誰もが参加しやすい環境づくりを進めることにより、地域住民の学習意欲の向上と地域文化の発展に努めたい。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化活動の拠点として、地域と密着してよりよく運営されていると思う。 ・施設の老朽化により、修繕の必要も出てきているが、計画的な改修と維持管理をお願いしたい。 ・富津岬には、高い建物が無い。4階・5階以上の耐震で津波の避難場所ともなりうる機能を兼ね備えた公民館であってくれたらと願うが…。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和59年度竣工以来26年が経過し、施設の各所に老朽化が目立ち、設備等の修繕ヶ所が年々増加傾向にあり、計画的な実施計画を検討、策定され早期改善を図る必要がある。 ・成人式事業は、豊かな地域づくりを推進していくうえで継続して実施することが望ましい。また、新成人への記念品については、毎年の課題となっており、十分検討のうえ公民館運営審議会にも図り早急に解決されることを望む。 ・活動事業は、例年同様の講座を開設し、幅広い活動が展開され生涯学習として地域文化の向上に寄与している。 	

7 中央公民館**項目(41)～項目(43)**

(41)	中央公民館管理運営事業	評価	B
------	--------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

生涯学習の基盤であり、社会教育施設の中核でもある公民館の、適正運営及び施設の充実を図る。また、設備の更新や改修を進める。

目標項目	基準年 平成19年度	目標年 平成22年度	達成状況
施設整備	施設改修	施設充実	整備中

2. 取組の実施状況

市民の自由な憩いの場や学習の場としての公民館の管理・運営を行い、また公民館運営審議会に各種事業の調査審議を諮り、サークル活動や文化活動、スポーツ・レクリエーション活動等の市民の利用促進、地域文化の向上を図った。

東日本大震災の発生に伴い、3月後半の夜間利用を休止した。なお、本年度に暖房設備改修工事を実施した。

3. 今後の課題と対応

中央公民館は、昭和47年度に建設された施設であり、設備は老朽化に伴い、各種保守点検及び修繕を重ねても、利用者の要求に対応が出来ない箇所が毎年増加してきている状況である。

特に、消防法、建築基準法等に定められている設備や舞台関係設備に整備改善の要請を受けている。また、21年度に実施した耐震診断結果がI s値を満足する結果であったため、本年度に暖房設備改修工事を実施したが、今後とも継続して計画的な施設整備を図る必要がある。

なお、東日本大震災に伴い、節電に努めるものとする。

(42)	市民文化祭事業	評価	B
------	----------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

市民の生涯学習活動の成果を発表し、市民相互間の親睦と融和を図ることによってより豊かな文化の向上と創造の心を養う。

目 標 項 目	基 準 年 平成19年度	目 標 年 平成22年度	達成状況
市民文化祭参加者数	18,027人	20,000人	台風の影響により、大幅減となった

2. 取組の実施状況

市民自ら積極的に運営に参加できるよう富津市民文化祭実行委員会を設置し、各館ごとの部門別の組織により、企画・運営をすることで、手作りの文化祭とするようにした。

総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・市民会館の4会場で6日間実施し、作品展、保育所(園)・幼稚園の園児作品、市民による写真・絵画・書道・生花・工芸作品など1,953人、3,001点の作品、子どもまつり・演劇・歌・踊りなどを催し、芸能部門出演者2,025人、参観者延人数は、12,714人を数え、市民の参加、相互間の親睦と融和、豊かな文化の向上と創造の心を養うことを図った。なお、台風の影響により子どもまつりの一部等が中止となったため、昨年に比べ参観者が減少した。

富津市民文化祭2010(平成22年度)の概要

月 日	10/29 (金)	10/30 (土)	10/31 (日)	11/1 (月)	11/2 (火)	11/3 (水)	参観者 数合計
会場及び事業内容							
総合社会体育館 (展 示) 絵画・写真・書道 篆刻・生花・絵葉書 俳画・編み物 陶芸・個人作品 文化祭ポスター、 メインテーマ 応募作品等 (催し物)茶席	78	76	286	107	85	319	951
			590				590
	1,300						1,300

富 津 公 民 館	(芸 能) 舞踊・歌謡・気功・和 太鼓・コーラス 太極拳・手話ダンス フラダンス・仕舞 健康体操・司会術祭 り太鼓・謡曲 シャンソン 舞台照明 ギター演奏		443					443
	(催し物) 韓国の劇 気学無料鑑定会			88 18				88 18
	(展 示) 富津公民館教室・生 け花サークル・子ども 作品展・国際交流協 会活動展・小中学校 造形展・小中学校科 学工夫・論文展・浮 書絵影サークル・富 津市文化財展	93	482	2,300	331	116	230	3,552
中 央	(芸 能)メイン含 津軽民謡ショー 琴・歌謡・太極拳 コーラス・健康体操 民謡・フラダンス 司会術・器楽演奏銭 太鼓・舞台照明 舞踊・古武術					700	700	

公	(催し物)							
	俳句大会			20				20
	短歌会			16				16
	将棋大会		40					40
	太巻き祭り寿司 模擬店						42 650	42 650
民 館	(展 示)							
	陶芸・押し花							
	草木染め							
	和紙ちぎり絵							
	俳句・短歌							
	すみえ絵手紙							
	和紙工芸・盆栽		123	398	313	336	785	1,955
	生花・万灯神輿							
	公民館教室作品							
	私公立保育園(所)、 私立幼稚園作品 小久保藩資料展等 つつじ苑デイサービス センター作品							
市 民	(メイン)							
	ハワイアン フラ フェスティバル						253	253
	(芸能)							
歌謡・民謡・舞踊								
仕舞・フラダンス								
大正琴・おこと			326				326	
シャンソン								
詩吟・尺八・司会術								
舞台照明								
ヒップホップダンス								
民	(催し物)							
	手作りパン教室		10					10
	社交ダンス		23					23
	囲碁大会		17					17

会 館	(展示) 折り紙・個人作品 公立保育所、市立幼稚園作品 鬼泪山の国有林を守る市民の会		225	633	224	143	495	1,720
	七宝焼・ちぎり絵 水彩画・ソーイング パッチワーク・ 押花・エコスクール 彫金・木目込人形							
合 計		1,471	1,439	4,675	975	680	3,474	12,714

3. 今後の課題と対応

毎年、事業の実施に多くの関係者の協力を得ているが、施設備品に限度があり、内容的にも毎年同じようなものになりがちで、参加者が限られてきた。

そこで、市民文化祭の反省会を基に、開催期間の見直しや、PRの充実、近隣高校生への参加の呼びかけなど、積極的な活動を展開していくものとする。

(43)	中央公民館学級・講座関係活動事業	評価	A
------	------------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

住民の生活課題、地域社会の共通課題を把握するなど、多様化するニーズに対応するため、最新の学習手法をとり入れ、市民に学習の機会を提供し、市民の生涯学習に対する意識の高揚と学習意欲の向上を図り、地域文化の発展に寄与する。

目標項目	基準年 平成19年度	目標年 平成22年度	達成状況
学級講座数	14学級	17学級	計画通り

2. 取組の実施状況

対象別（青少年・婦人・成人・高齢者等）や課題別（歴史文化・工芸・健康等）の17学級・講座を開設し、市民に学習の機会を提供し、人づくりや地域づくりに寄与した。なお、今年度は、新たに「紙バンド手芸教室」と「アロマリフレッシュ教室」を行った。

学級・講座開催状況

平成23年3月31日現在

	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	ピッコロ学級	9	369	幼児の心身の発達、健康についての講義や移動学習、集団での遊びの実習。
2	シルバー生きがい学級	8	196	高齢者がいきいきと生活できるように、健康についての講義、軽スポーツ・レクリエーションや実習、社会見学等を交えながら学習していく。
3	さわやか女性セミナー	10	299	暮らしに役立つ課題や社会情勢などについて、見学、講義、実践を行いながら学習する。
4	折り紙教室	8	93	伝承折り紙から創作折り紙まで、アートとしても楽しめる折り紙の作品づくりを学ぶ。
5	クッキング教室	9	115	化学調味料をなるべく使わない体にやさしい料理を学ぶ。
6	ヨガ教室	18	484	ヨガを通じて体と心の健康増進を図り、健康の維持に役立てる。
7	読み聞かせボランティア入門講座	6	36	読み聞かせボランティアの未経験者を対象に本の読み聞かせの技術について実践を交えながら学習していく。
8	携帯電話の使い方教室	4	48	中高年を対象に携帯電話を気軽に利用できるようにし、生活の利便性を拡大する。
9	パソコン教室 (IT講習)	12	201	文書や表の作成、インターネットの接続と利用、年賀状作り等テーマごとに初心者向けの基本操作を学習する。
10	外国人のための日本語講座	25	257	在日外国人が日本で生活するうえで言葉の壁を少しでも減らし、地域のひととのコミュニケーションがとれるようにする。
11	こどもチャレンジ教室	4	119	創作や体験を通じて自発性、活動性、創造性を育てる。
12	中国語入門講座	17	204	日本の隣国である、中国の言語と日常会話を学び中国の伝統文化等をあわせて学習する。
13	リンパ流健康教室	9	175	汚れた血液を心臓に戻すため、リンパを流し、筋肉疲労をとり、血液を良くして、未病の予防を学習する。
14	いきいき健康体操教室	9	163	自分の体の状態と弱点を知り、身の周りある用具を使って、弱点を克服する体操を学んだり、グランドゴルフ・レクゲームを行ったりして心身の健康増進を図る。

15	紙バンド手芸教室	9	157	古紙から再生される環境に優しい紙バンド（エコクラフトテープ）で、ミニかごやバッグ、小物入れなどを作り、手芸の楽しさを学ぶ。
16	アロマリフレッシュ教室	9	203	植物に由来する自然の香りを生活に取り入れ、心身の健康や美容の増進を図る。
17	こども折り紙教室	4	51	親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた日本の伝統工芸折り紙を楽しむ。
	合計	170	3,170	

3. 今後の課題と対応

多様化している市民のニーズに対応した学級講座の開設は、職員の人数等を考慮した場合対応が困難な状態であるが、学校や地域の各種団体等と連携し、事業内容を検討し、誰もが参加しやすい環境づくりを図る。また、館外学習を実施するときは、生涯学習バスの運行日程等の調整、或いは民間バスの利用を考慮するなどして計画する。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評	価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生涯学習の拠点として、多様化するニーズに対応するために、管理運営に苦慮して取り組んでいることが理解できる。 ・利用状況についても、15教室講座40サークルの他、地域市民及び各種団体等、地域に密着してよく利用されている。 ・施設の老朽化に伴い、市民が安全・安心、便利に利用できるよう施設の改修を計画的・継続的に実施していくようお願いしたい。 		

外部評価者（Ⅱ）の意見

評	価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和47年度竣工で、富津公民館、市民会館と比べ施設の老朽化が進んでおり、災害時の地域住民の避難場所（東日本大震災で利用）であり、計画的な改修計画により安心安全な施設として市民が利用できるよう整備することが必要である。早急な改善を要望する。 ・活動は、生涯学習に対する学級講座の開催状況及びその内容等良好な状況にあり、自から学んだことを生じながらサークル活動のなかで地域文化の向上に努力されている。 		

8 市民会館	項目(44) ～項目(46)
---------------	-----------------------

(44)	市民会館管理運営事業	評価	B
-------------	-------------------	-----------	----------

1. 平成22年度取組目標

市民の実生活に即した教育、学術及び文化事業を行い、教養の向上、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するための拠点施設の管理、運営を図る。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成19年	目標年 平成22年度	達成状況
施設整備	施設改修	施設充実	整備中

2. 取組の実施状況

地域の生涯学習の拠点として、多様化するニーズに対応するため施設の管理運営を行い、主催事業である教室及びサークルのほか、市民及び各種団体等に利用され、また文化施設としての活動の場として地域文化の向上を図った。

なお、東日本大震災に伴い3月後半は節電のため利用を一部制限した。

3. 今後の課題と対応

市民に施設を気持ち良く利用していただくため、施設改修を継続的に実施していく必要があり、駐車場についても大きなイベントなどがある場合、現状の駐車場では対応できない場合があるため、近傍の駐車場を借りるなどしているが、今後も検討していく必要がある。

また、東日本大震災に伴い利用者に対しても節電の協力を依頼する。

(45)	峰上地区公民館管理運営事業	評価	B
------	---------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

地区公民館として、市民の実生活に即した地域生涯学習拠点として施設の充実と適正な運営を図る。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成19年	目標年 平成22年度	達成状況
施設整備	施設改修	施設充実	整備中

2. 取組の実施状況

地域の集会場として、学習の拠点として多様化するニーズに対応するため施設の管理運営を行い、地域住民及び各種団体等に利用された。

なお、東日本大震災の発生に伴い、3月後半は節電のため利用を一部制限した。

3. 今後の課題と対応

昭和38年9月開設の木造2階建ての施設であり、施設整備等の保守点検を実施し管理運営に支障をきたさないよう改善を図った。

また、東日本大震災に伴い利用者に対しても節電の協力を依頼する。

(46)	市民会館学級・講座関係活動事業	評価	A
------	-----------------	----	---

1. 平成22年度取組目標

市民のため各種教室、講座を実施し、教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、生涯教育の充実を図る。

(施策の基本的な考え方に対応した指標)

目標項目	基準年 平成19年	目標年 平成22年度	達成状況
学級講座数	15学級	16学級	15学級

2. 取組の実施状況

地域における市民の主体的学習活動を支えると共に、受講者ニーズを取り入れた教室や情報提供など学習内容の充実に努めた。

○ 平成22年度教室・講座開催状況

平成23年3月31日現在

講座の名称		開催回数	参加 延 人 員	講座の趣旨と内容
1	歴史探訪講座	9	196	地域の歴史を、文化、自然、人物、史跡などから発見、学習する。
2	パソコン教室	6	84	文書や表の作成、インターネットの接続等パソコン操作の初心者向け講習会。
3	子どもダンス教室	11	164	リズム感を養いながら、音楽に合わせて体を動かし、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
4	煎茶道教室	8	48	玉露、煎茶、紅茶、番茶の点前をとおして、作法、所作を学ぶ。
5	折り紙教室	9	127	指先を使うことによる脳の活性化を図ると共に、一つの紙片から作られる芸術を折り紙づくりから学ぶ。
6	スローライフ楽塾	10	122	団塊世代を含め新たなライフスタイルを探求したい方を対象に、インドア・アウトドアを問わず様々な体験を通して学ぶ。
7	健康増進教室	2	44	ハイキングやウォーキングにより、地域探訪をしながら心と体のリフレッシュを図る。
8	バラエティ料理教室	7	73	和洋中華、アイデア料理など幅広い料理作りをし、併せて調理器具の使い方を学ぶ。
9	エコ・スクール	11	103	自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学ぶ。
10	子どもチャレンジ教室	5	16	家庭や学校では体験できない様々な学習を通して、自主性・社会性・創造性を育てる。
11	シルバー生きがい学級	10	555	高齢化が進むなか、レクリエーションや学習を通じ、参加者が交流を図り、仲間づくりをする。
12	初めての英会話教室	4	26	英会話の初心者を対象とした日常英会話を学習する。
13	花づくり教室	8	180	主に園芸店等で売られていない四季の花々の育て方を学ぶ。
14	証券学習講座	6	34	初めて「経済」や「金融」を学ぶ方を対象とし、難解な経済、金融の仕組みや用語を解説しながら「お金の流れ」や「自分でお金を守る」など新時代のマネーライフを学習する。

15	和菓子教室	9	203	日本古来から伝わる和菓子作りを、基礎から学ぶ。
	合 計	115	1,975	

3. 今後の課題と対応

- ・ 募集定員に満たない教室等は、追加募集などを行う。
- ・ P R の充実-----受講生からの口コミ勧誘
- ・ 講師不足-----熟練受講生の活用

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
意見	
<ul style="list-style-type: none">・地域の生涯学習の拠点として、地域と密着してよりよい事業がなされていると思う。・市民が気持ちよく利用できるよう、計画的・継続的な改修を実施してほしい。	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	B
意見	
<ul style="list-style-type: none">・平成元年7月竣工の比較的新しい施設であるが、老朽化も目立つことにより年々維持費の増加が見込まれるため計画的の施設改修を継続的に実施する必要がある。・駐車場については、借地である隣接の老朽化した建物の撤去等を含め借地の有効利用を図ることもふまえ十分検討され対応されるよう要望する。・地域における市民のための学習活動をささえるため、地域課題を取り入れた教室、講座など学習内容の充実、多様化を図りながら、生活文化の振興、生涯教育等に寄与されている。 今後、益々各事業を展開され地域文化の向上に努められたい。	

9 教育委員会の広報活動	項目(47)
---------------------	---------------

(47)	教育かわら版の発行	評価	A
------	-----------	----	---

1. 平成22年度取組目標

従前から、広報ふつつ等を活用して適時広報活動を展開してきたが、教育委員会が日頃行っている業務等について、市民に理解していただくために、平成20年度から「教育かわら版」を区長回覧を通じて全戸配布している。
今年度も、3～4号の発刊を目指す。

2. 取組の実施状況

7月・10月・1月・3月に計4号（通刊11号）発行した。

3. 今後の課題と対応

開かれた教育委員会を目指す姿勢や、各種制度の解説などについて一部の市民からは高評価をいただいている。かわら版発行のための特別の予算措置や人員配置ができないため、業務増につながっているのも事実だが、今後も見やすい紙面づくりに努め市民サービスの向上に寄与したい。

外部評価者（Ⅰ）の意見

評 価	B
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた教育委員会を目指し、教育委員会が行っている業務等についての広報 “ふつつ教育かわら版” の発行は、広く市民が現行の教育課題を理解することにつながると思う。 ・「育英資金制度」についても将来を託す若者の育英という良い取り組みと考えるもので、広報活動を続けてほしい。 ・3月の東日本大震災以降、市内の学校の安全・安心のために、飲み水、校庭、大気中の放射線量等を測定し、広く市民に知らせる方策をとってほしかった。 	

外部評価者（Ⅱ）の意見

評 価	A
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわら版の発行は、開かれた教育委員会としての観点から大変有意義なことで大変良いことと評価します。 <p>今後、更に見やすい紙面づくりに努めるとともに、直面するあらゆる教育問題を含め情報を市民に提供し理解を得るため事務量の増につながり厳しい面もあると思われませんが市民サービス向上のため更なる努力を願います。</p>	